

## 『神に役立つ者となろう』 エレミヤ書13章1～11節 2015.3.8(日)

『まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のようだ。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。』 詩篇1篇2～3節

エレミヤは神の命令通りにした。亜麻布の帯を買い、岩の割れ目に隠し、放置…そして帯は腐った。この帯のように神の民も「役に立たなくなった」と告げられる！亜麻布とは祭司の服を作る生地。「亜麻布の帯が腐る」とは第一に、祭司的役割の喪失。神の民は、すべての国民と世の人々の仲介をする使命を担っていた…にも関わらず、彼らは偶像を拝み、神から離れた「ただの人(Ⅰコリント 3:3)」以下だった。第二に彼らは「帯」の役割も失う。神と人と結び合わせるべき存在意義を失った。

クリスチャンの存在意義は、世の光であること(マタイ 5:14、16)。それは、罪の闇を照らし、世に神の愛を輝かせる！教会から一歩出て…職場、学校、家庭で…。苦手な人に出会い、誰かに冷たくされ、辛い試練の中…あなたはクリスチャンだろうか？そんな要求は面倒だ！と思うなら信仰を間違えている！私たちは自分では光れない！クリスチャンの輝きは神の光の反射！主に心向け、イエス様を心にお迎えしてこそ輝く愛の光！

神の民は「心の割礼がなかった(エレミヤ 9:26)」。洗礼を受け、どんなに礼拝に通っていても、神の愛を『心』で受け止め、その赦しや慰めが『心』に響かなければ人は変わらない。しかし神(聖霊)が、その心に語られるときがくる！そのとき、説得が納得に変わる(エゼキエル 36:26～27)。主の本気の愛に触れて人の願望は変わる！自己中心的心が、赦し、思いやり、平和を願うようになる。

「役立つ(ツァーラハ)」とは『幸せ』の意。神はハピロン捕囚により民の腐った性根を打ち壊して祝福を回復された。これこそ『将来と希望を与える計画(エレミヤ 29:11)』だった。神は、『何の役にも立たない』存在を、『何をしても栄える(詩篇 1:3)』存在へと変えてくださる！そのために、『教えを聞こうともしない者(エレミヤ 7:13)』でなく、『教えを喜び、昼も夜も教えを心に響かせる(詩篇 1:2)』幸いな毎日を願い求める者となろう！